

# さんま通信



厚生中央病院だより 第48号 2017年

冬



## 平成29年 新年のご挨拶

病院長 櫻井 道雄

新年あけましておめでとうございます。

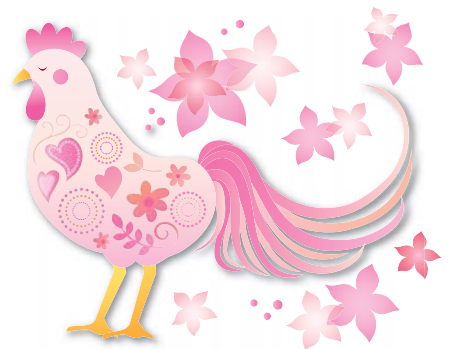
高齢化した社会では、多くの病気を抱えながら住み慣れた地域で暮らすことを希望している人がたくさんいます。目黒区の調査でも、長期療養が必要になったときは自宅で療養を受けたいと願っている人が半数(48%)を占めています。厚生中央病院は地域中核病院として地域の在宅医療を支え、がん専門病院や高度急性期病院との橋渡しの機能を持った病院として地域を支えています。

高齢化社会での医学的キーワードは「認知症」「嚥下性肺炎」「転倒骨折」「悪性腫瘍性疾患」です。高齢化社会に適応した急性期病院として、当院には「認知症サポートチーム」「嚥下栄養サポートチーム」「緩和リビングウイイルサポートチーム」「低侵襲性手術サポートチーム」などがあり、入院した患者さんが安心して医療が受けられるように様々な対応を行っています。昨年暮には、転倒骨折の予防対策の為に「骨粗鬆症サポートチーム」を立ち上げ、高齢化社会の医学的キーワードにすべて対応できる体制を整えました。

高齢化社会では医療と介護は表裏一体化し、医療と介護の連携は不可欠です。医療・介護提供者はまず、医療や介護を受ける側に対して強い影響力を持っていることを認識しなければなりません。また、医療・介護提供者も必ず医療を受ける側に回るということを理解していなければなりません。すなわち、医療・介護を提供する側も、受ける側も同等であるということです。これがすべての出発点でなければなりません。

最近の世の中の動きをみると、強者と弱者が入り乱れ、強者の論理で物事を進めようとする風潮が出てきていることに危惧を覚えます。人は一人では生きていけません。お互いが助け合いながら生きているのです。強者だけの世界では滅びること間違いなしです。弱者の気持ちを思い、寄り添うことで人間としての温かい気持ちが芽生え、育つものです。今年こそは、そんな芽が出てくることを願わずにはられない年と思われま。

皆様方、個々におかれましては心豊かで平穏な一年でありますことを心からお祈りし、新年のご挨拶に代えさせていただきます。



### 目次 contents

平成29年 新年のご挨拶 ..... 1

放射線治療のおはなし ..... 2~3

地域健康フェスティバル2017を開催します!  
クリスマスコンサートを開催いたしました  
医療連携懇談会を開催いたしました  
「医療と介護連携セミナー」を開催いたしました ..... 4

どうして?  
さんま通信の

目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る!』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

# 放射線治療のおはなし

東京医科大学病院 放射線科主任教授  
厚生中央病院 診療放射線科

徳植 公一

放射線治療は手術療法、化学療法と並んでがん治療の三本柱の一つです。日本では、がん治療を受けている患者さんの3割程度しか放射線治療を受けていないのに対して、欧米ではその倍の約6割の患者さんが受けている治療です。切らずに、傷を残さずに、体の機能を温存できるのが特徴です。CTやMRIなどの画像診断技術が進歩して、腫瘍の進展範囲が明瞭に分かるようになり、それに照射技術の進歩が加わって正常組織に対して無駄な照射がなくなったことが、放射線治療の成績の向上に繋がっており、低侵襲治療（体に負担が少ない治療）の一つになりました。このように、放射線治療はあくまでも局所療法ですので、期待できるのは照射した局所の効果であり、逆にその局所以外に副作用は生じません。

## 放射線治療の対象となる疾患は？

放射線治療の対象となるのは、ほとんどが「がん」であり、それ以外は脳動静脈奇形、血管腫などの限られた疾患です。頭のとっぺんから、足の先まで部位は問いませんし、治療の仕方により根治治療から、症状を緩和する治療まで様々な状況に対応することができます。当院では、特殊な装置を必要とする場合を除いて、すべての状況に対応することが可能です。根治的な治療を行う疾患としては肺がん、乳がん、前立腺がん、悪性リンパ腫、症状緩和の治療として骨転移を多く扱っています。対象となる範囲が広いので、放射線治療という手段があることを思い起こし、気軽に放射線治療の適応について、相談していただければと思います。

## 実際にはどのように治療を進めるの？

標準治療（世界に認められている治療法）を基本に据えて、各々の患者さんに最善となるように治療法を調整しています。一般的なスケジュールは、初診日に治療による利益とそれに伴う危険性などの不利益を説明し、納得していただけるまで説明します。次に、実際の治療と同一の条件でCTを撮影して、そのCT上で治療方法を決定します。ここで決定した治療方法に従って何回にも分けて治療しま



### 実際の治療の風景

治療中は患者さん一人しか入れませんが、モニターで状態を常に見ていますのでご安心下さい。

す。この理由は、治療した後の正常組織の回復を見込んで、正常細胞よりがん細胞に大きな損傷を与えるためです。根治的な照射ですと、疾患により変わりますが、だいたい1日1回の照射を30回ぐらい繰り返しますので、約6週間かかります。一回あたりの時間は約10分です。治療中には、通常の暮らしが維持できますので、散歩がてらに通院していただくぐらいの気持ちで良いでしょう。とにかく痛みを取ろうというような緩和目的の治療ですと、短期間に治療します。通常は10回、2週間で済みますが、状況に応じて変えていきます。化学療法との併用する場合には、開始時期を化学療法と調整します。

### 効果はどの程度？副作用はあるの？

治療の効果は、一般には照射した局所のみに見られます。その効果は、がんの性質、進行度、存在する場所などにより異なります。早期のものでは概ね治癒しますので、早期発見、早期治療ということは手術と同様に放射線治療でも大切なことです。効果と同様に副作用も照射した場所にしか生じません。皮膚炎や口内炎、膀胱炎などの治療中に出現した症状は、治療が終わると改善しますが、稀に、終了後に障害が生じることがあります。ときに、広島・長崎での原爆をイメージする人もいますが、原爆の障害は一度に全身に大量に様々な種類の放射線を浴びた結果です。放射線治療では何回にも分けて正常組織の回復を待ちながら、必要なところに限局して、適切な種類の放射線をきめ細やかに照射するもので、原爆による被曝とは全く異なります。

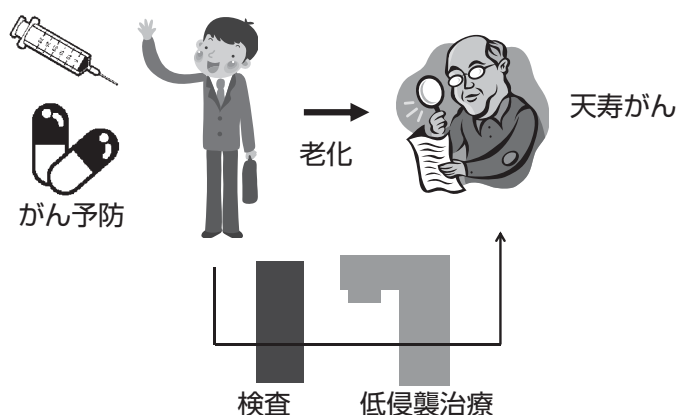
### どんな体制で治療しているの？

二人の放射線治療専門医が勤務しています。放射線治療を紹介していただいた関連科とは、すぐに連絡がとれるようになっていきますし、部門内では医師、放射線技師、看護師の間で常に患者さんの状態につき情報を共有化しています。このチームワークにより、安心・安全な治療が実現できていると自負しています。

### 放射線治療の位置付けは？

細胞レベルで考えると永遠の生命は存在しますが、人間の命には限りがあります。この限りがあることが、人生に豊かさを与えているのでしょうか。名画「トロイ」の中で、アキレスが語った言葉「本当のことを教えてあげよう。神は人の命に限りがあることに嫉妬している。君の美貌もいつかは衰える。だから美しいと」。ギリシャ神話の設定は、神は永遠の命を持ち、人間の命には限りがあることです。個人的には誰もが欲しないことですが、社会的に見れば個人の死は必要不可欠です。このことを前提に考えるならば、問題は生き方、死に方です。私は一生のモデルとして、がん予防、天寿がん、低侵襲治療の組み合わせを考えています。若い人に対しては、ワクチンなどでがんを予防して健康な生活を送り、高齢となって痛みを伴わない天寿がんで最期を迎える。余命を知ることができ、自分の一生を整理する時間が与えられると考えるからです。このように予防してもがんが発症した場合には、体の負担が少ない低侵襲治療が定番です。放射線治療は低侵襲治療の一つとして、仕事を続けながら受けることができる治療であり、忙しい人にとっては人生を考え直すあるいは休息の時間を与えてくれるかもしれません。

#### ●がん治療のシナリオ●



## 地域健康フェスティバル2017を開催します!

### 開催日時

平成29年2月19日 日曜日  
午前10時30分から午後3時

### 開催場所

厚生中央病院内

### 予定している 実施内容

- 健康卓球
- 計測ツアー（血圧・骨密度などの測定、医師による健康相談）
- なりきりキッズ写真館（ナースやドクターに変身）
- 病院見学（手術室等）
- AED操作講習、転倒予防体操
- 目黒区健康推進課の協力による受動喫煙についての展示



ご家族そろって  
お越しください。



## 12月22日(木) クリスマスコンサートを開催いたしました



1階ロビーに於いて16時から、第22回クリスマスコンサートを開催いたしました。音楽の力で、患者さまと患者さまを支えるご家族が少しでも明るくなり、前向きになればという想いで、当院職員、職員の友人が心をこめてピアノや楽器を演奏しました。



## 医療連携懇談会を開催いたしました

10月28日(金)および11月25日(金)、恵比寿ビヤステーションにて「厚生中央病院医療連携懇談会」を開催いたしました。お世話になっている地域のクリニックの先生方及び介護・療養等に携わる方々をお招きし、日頃の感謝の意を伝えるとともに、参加者の皆様と交流を図らせていただきました。

今後も地域の医療及び介護に携わる方々と連携を深め、地域の患者さまによりよい医療を提供できるよう、また皆様のご期待に添えますよう精励して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。



## 12月8日(木)「医療と介護連携セミナー」を開催いたしました

地域のクリニックの先生及び介護職等に携わる方々との勉強会「医療と介護連携セミナー」を当院3階講義室にて開催いたしました。

「抗菌薬の適正使用」をテーマに、東京医科大学病院 感染制御部副部長 中村造先生から、とても分かりやすく興味深いご解説をいただき、ご参加された多数の先生方及び介護職等に携わる方からもご好評の声をいただきました。今後も勉強会のご案内をいたしますので、ご参加をお待ちしております。



総合  
病院

厚生中央病院